

## 第10回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第10回青森県民駅伝競走大会が9月1日（日）、青森市で行われ、県内全市町村の代表選手が郷土の誇りをかけて健脚を競った。

今回、これまでの10区間、42.195キロから8区間、33.8キロに短縮するなど大会要項を一部変更しての開催となった。

変更された内容の中で一番の話題と言え、やはり本県の産業振興の拠点である、いわば「青森県の顔」とも言うべき青森県観光物産館アスパムの玄関口をスタート地点とし、交通規制が困難とされてきた国道4号を初めて使用したことである。

当日は、日和に恵まれたとは言えるものの、気温25度前後、湿度も80パーセント近くあり、選手にとっては少し厳しいコンディションとなった。

そのような中、スタート地点となったアスパム周辺では、陸奥湾から時折流れる潮の香りが選手たちの心身を幾分リフレッシュさせ、正午には大会長・木村知事による号砲が鳴り響くと、巨大な正三角形の建築物を背に、県下67市町村を代表する第1区走者が閃光を放つように飛び出した。

第1区〔アスパム前～合浦公園／高校生以上男子〕は、スタート地点を八甲田丸前からアスパム前に変更し、初の試みである国道使用といったこれまでとは一新したコースである。

旧1区の5.495キロから900メートル程短縮され、従来のような坂道もほとんどないため、その分スピードがより要求され、仕掛けどころも注目された。

スタート直後は、八甲通りの約600メートルを全選手がほとんど固まった状態で流れ、その後、過去3年連続で第1区の区間賞を獲得している三戸町の中山広光選手（三戸町役場）の走りがこの区間の鍵を握るものと予想された。

国道4号を浅虫方面へ向けてまもなくすると、やはり実績を誇る選手たちが徐々に先頭集団を形成していった。

黒石市の盛隆宏選手（国学院大学1年）とむつ市の板垣陽介選手（海上自衛隊大湊）が並走して先頭に立ってレースを引っ張り、そのすぐ後には青森市の岩瀬真選手（陸上自衛隊青森）、八戸市の佐藤心雄選手（陸上自衛隊八戸）、浪岡町の工藤恵史選手（青森山田高校2年）、三戸町の中山広光選手が続いた。

国道から合浦公園西側の入口に向かう浪打病院前の交差点を左折する3.6キロ付近で、むつ市の板垣選手が一気にスパートをかけて後続を断とうとしたのに反応して青森市、八戸市、浪岡町、黒石市、三戸町が続々と食らいついてい

こうとしたが、トップランナーの必死な力走になかなかついていけず、後続50メートル以上も引き離されてしまった。

第2区〔合浦公園～野内ノ中学生男子〕は、区間距離を3.8キロに調整し中学生男子区間に変わった。

トップでタスキを受けたむつ市の高橋哲選手（大平中3年）は次の中継所を目指して淡々と走り続ける中、2位を走る八戸市の松本達也選手（白銀中3年）が徐々に追い上げ、2キロ付近に差し掛かる頃にはむつ市を捉えて横に並ぶと、一気に引き離そうという勢いを見せた。

八戸市の松本選手は長身を生かし、落ち着いたストライドで快調に飛ばし独走態勢を築きつつあった。

黒石市の高橋竜大選手（東英中2年）も健闘し、2位のむつ市を後半捉えて、中継をほぼ同時に行った。また、東北町の鶴ヶ崎功選手（東北東中3年）も13位でタスキを受けた後、前を走る選手を次々とごぼう抜きし4位まで順位を上げた。

また、この区間で大会新記録を獲得した七戸町の工藤正也選手（七戸中3年）は49位から23位まで上げる快走を披露した。

第3区〔野内～諏訪沢ノ高校生以上男子〕では、トップでタスキを受けた八戸市の鷲塚広志選手（陸上自衛隊八戸）の後を10秒差で追うむつ市の柳田剛選手（海上自衛隊大湊）が区間トップで快走し、500メートル付近であっという間に先頭に躍り出た。また、黒石市の工藤翼選手（黒石商業高2年）も前半力走を見せて一時はトップランナーのすぐ後につけたが、徐々に離されていった。

第4区〔諏訪沢～戸山団地ノ高校生以上男子〕は、各区間中一番長い距離となる6.1キロで、トップを行くむつ市の舩木和寿選手（青森大学大学院）が実力を発揮し、2位以降との差を更に広げる展開となった。

第5区〔戸山団地～幸畑ノ中学生女子〕は、今大会初めて設定した中学生女子の区間であり、旧7区より1.2キロ短い2.5キロとなった。

トップを行くむつ市の對馬悠里選手（むつ中2年）は、県内で800メートルのトップ記録を持つ実力者で、ぐんぐんと2位との差を広げ続けていった。

また、5位でタスキを受けた東北町の小坂恵選手（東北中3年）は、この区間の新記録をマークする快走で、2キロを過ぎた辺りで黒石市の松井佳那選手（黒石中3年）をかわして2位に浮上し底力を見せた。

第6区〔幸畑～流通団地／高校生以上男子〕では、後続と2分差をつけてタスキを受けたむつ市の江村健太郎選手（順天堂大学2年）が非常にコンパクトで安定したフォームで完全に独走する一方、2.5キロ付近では東北町の蓬畑徳仁選手（仙台大学4年）が2位をキープし、また、その後ろ約50メートルの所では黒石市の藤田修平選手（黒石商業高2年）、青森市の山内敬裕選手（青森工業高2年）が熾烈な3位争いを繰り広げた。

第7区〔流通団地～細越／中学生以上女子〕は、以前は40歳以上の男子区間であったが、このたび女子の区間に切り替わった。

むつ市の渡邊伯夏選手（大湊中2年）は、後続と約2分30秒の大量リードをもらってタスキを受けると、落ち着いた走りで最終区の選手の待つ第7中継所を黙々と目指した。

トップランナーを追う東北町の富田恵里奈選手（青森原燃テクノロジィセンター）が必死に力走するが、それとは裏腹にこの区間で新記録を獲得した青森市の唐牛千鶴穂選手（青森山田高2年）に2.7キロ付近で捉えられ、熾烈な2位争いを展開した。

また、そのすぐ後ろにも黒石市の葛西慶子選手（黒石商業高2年）が追い上げてきており、レース上位の行方も最終区までわからなくなってきた。

第8区〔細越～県陸上競技場／中学生男子〕では、3区以降独走態勢できたむつ市が最終ランナーの成田拡彰選手（大平中2年）へタスキが渡ると、力強いストライドでゴールの県総合運動公園を目指し、終始後ろを気にすることなく落ち着いた走りで念願の総合1位の座を獲得した。

また、2位を争う東北町と青森市は僅差でタスキを受けたが、1.3キロ付近で、東北町の熊沢渉選手（東北中2年）が青森市の山内翔太選手（筒井中3年）を引き離そうとペースを上げ、その差は徐々に開いていった。

東北町の熊沢選手はトップランナーを追い上げたが、最後までその姿を捉えることができないままゴールした。黒石市の工藤貴広選手（東英中3年）、八戸市の佐藤謙選手（市川中3年）も十分健闘を見せ、それぞれと続いてゴールした。

#### 《市の部》

むつ市が5区間で区間賞を獲得するなど、昨年の市の部第1位の勢いを引き継いで、2区でやや後退した以外は全て先頭を維持し続けて堂々の2連覇を成し遂げ、総合成績でも初の栄冠を手にした。

また、2位争いは最終区までもつれ、黒石市が一昨年の振り返きをねらう青森市を押さえて市の部第2位と昨年の順位を1つ上げて大健闘した。次いで前半で好位置につけていた八戸市がわずか10秒差で第3位につけた。

#### 《町の部》

東北町が2区で町の部トップに立った以降、順調に8年連続9度目の優勝に輝いた。総合成績においても先頭のむつ市を必死に追い続け、「駅伝の町」を強く印象づけた。

また、野辺地町と五戸町が5区以降2位争いを繰り広げた末、7区で野辺地町が五戸町を追い抜くと、そのまま40秒程の差を守り切って2位。五戸町は昨年に続き3位。名川町は昨年の9位から大きく躍進し第4位と大健闘した。

昨年まで2位に定着しつつあった大鰐町は、残念ながら前半の出遅れが最後までひびき第7位と不本意な成績に終わった。

#### 《村の部》

南郷村が4区でトップを走る福地村を追い抜くと1分半近い差をつけ、その後も勢いに乗ってじりじりリードを広げ、村の部3連覇を達成した。

また、福地村と森田村は、後半以降2位争いを交互に繰り返し、最後は20秒の僅差で福地村が第2位に輝き、森田村は昨年と同じ3位となった。

過去6度の優勝を誇る六ヶ所村は、4区で1度は2位につけたが、わずかながら及ばず4位という結果だった。